

第5期 製造業シニアエグゼクティブによるイノベーションの薰陶と相互学習 イノベーションフォーラムジャパン

グローバル市場で生き残るために、いかにして日本発のイノベーションをマネジメントするか?

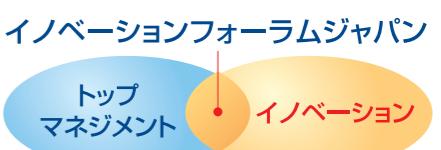
第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
2017年 9月20日 (水)	2017年 10月20日 (金)	2017年 12月7日 (木)	2018年 1月30日 (火)	2018年 3月6日 (火)
13:30 エグゼクティブ講演 リーダーの役割: 変革を実行する組織・人づくり <ul style="list-style-type: none"> ■なぜ変革が起きないのか ～イノベーションを育む風土・組織づくり ■変革を起こすリーダーの条件と役割 ■世界に通ずるリーダーの育成 <p>元 株式会社LIXILグループ 取締役 代表執行役社長 兼 CEO 元 ゼネラル・エレクトリック・カンパニー シニア・バイス・プレジデント 藤森 義明 氏</p> <p>プロフィール 1975年 東京大学工学部卒業後、日商岩井入社(現双日)。81年、米カーネギーメロン大学MBA取得。86年 日本GE入社。97年 米GEカンパニー・オフィサー、2001年 アジア人初のシニア・バイス・プレジデント就任。08年 日本GE会長兼社長兼CEO兼任。11年から16年まで株式会社LIXILグループ取締役代表執行役社長兼CEO。11年から16年まで株式会社LIXIL 代表取締役社長兼CEO、16年4月から6月まで株式会社 LIXIL 代表取締役会長兼CEO 兼任。2016年6月より相談役。その後、東京電力ホールディングス社外取締役(2017年6月23日 総会にて退任)のほか、現在は、武田薬品工業社外取締役、ボストン・サイエンティフィック コーポレーション社外取締役、CVCキャピタルパートナーズ日本 法人最高顧問、カーネギーメロン大学ボードオブトラスターを兼任。</p>	エグゼクティブ講演 “未来を創る” ～イノベーティブな企業であり続けるために～ <ul style="list-style-type: none"> ■ イノベーションとリコーのデジタル化戦略 ■ リコーの経営改革～体質改造への挑戦～ ■ オフィスの未来は“知識創造”へ <p>株式会社リコー 取締役会長 近藤 史朗 氏</p> <p>プロフィール 1973年 新潟大学工学部を卒業後、リコーに入社。2014年に国立科学博物館の未来技術遺産に登録された「リファクス600S」(1974年発売)を最初に、一貫して製品開発に携わる。2000年 常務執行役員、画像システム事業本部長。03年 常務取締役、05年 取締役専務執行役員を経て、07年に代表取締役会長執行役員就任。就任直後、グローバル競争の激化、世界金融危機、大規模自然災害等による景気後退に因高も重なり、リコーの業績が悪化。創業以来の危機に直面したが、真摯に経営改革に取り組み、業績のV字回復を実現した。13年4月に代表取締役会長執行役員に就任し、17年4月より現職。</p>	エグゼクティブ講演 ものづくり企業が目指すべき「価値づくり」とは <ul style="list-style-type: none"> ■ ものづくり企業のトレンドと今日的課題 ■ 価値づくり経営を実現する「意味的価値」 ■ 真の顧客価値企業へ(先進企業事例検証含む) <p>一橋大学イノベーション研究センター センター長・教授 延岡 健太郎 氏</p> <p>プロフィール 1981年 大阪大学工学部卒業。マツダ株式会社入社、商品戦略担当。88年 マサチューセッツ工科大学経営学修士、93年 同経営学博士。94年 日本大学経済経営研究所助教授、99年 同教授。2008年より一橋大学イノベーション研究センター教授。12年より同センター長。専門は、経営戦略、組織、技術経営。主な著作:「マルチプロジェクト戦略」(有斐閣)、「MOT(技術経営)」(日本経済新聞社)、「製品開発の知識」(日本経済新聞社)、「価値づくり経営の論理」(日本経済新聞社)、「Thinking beyond Lean」(Free Press 英語からフランス語、韓国語、中国語へも翻訳)など。</p>	エグゼクティブ講演 イノベーション・マネジメント ～世界一流のモノづくり論～ <ul style="list-style-type: none"> ■ NISSAN R35 GT-R開発の背景(求められたグローバルトップブランドと世界最高性能) ■ 成功の本質: 企画から開発、生産、そして販売に至るまでの重要なエッセンス ■ イノベーションを生み出す環境・文化、そしてリーダーシップ等 <p>元・日産自動車株式会社 NISSAN GT-R 開発責任者 華創日本株式会社 代表取締役COO 兼 華創車電(台湾) 上級副社長 水野 和敏 氏</p> <p>プロフィール 元日産R35GT-Rの生みの親で、グローバル・プロジェクト統括及び開発責任者として活躍後、現在は「華創日本株式会社」代表取締役COO(日本)、及び「華創車電(台湾) 上級副社長」として、LUXGENブランド車全ての開発や企画等を担当する傍ら、自動車関連の新型車試乗と評価結果の紹介記事等を定期連載中。また「生きる力プロジェクト」の主宰者として将来の日本を担う開発者等の人材育成活動をはじめ、企業の新商品開発や人材育成、マネジメント研修講師としても幅広く活動中。</p>	エグゼクティブ講演 日本流イノベーションの創出 ～東レの研究・技術開発戦略を中心に～ <ul style="list-style-type: none"> ■日本人気質を活かした研究・技術開発戦略: “超継続”、“連携と融合” ■“極限追求”と“革新技術新展開”によるイノベーション創出例 ■CTOの役割(総合力の発揮、将来有望なテーマの仕込み、人財育成など) <p>東レ株式会社 代表取締役副社長 技術センター所長(CTO) 阿部 晃一 氏</p> <p>プロフィール 1953年 兵庫県神戸市生まれ。77年 大阪大学大学院基礎工学修士修了後、東レ株式会社に入社し、ボリエスチールを中心とするフィルムの研究に従事。96年 リサーチフェロー(フィルム構造設計)に認定、フィルム研究所長、研究・開発企画部長、愛知工場長を経て、2005年 取締役(研究本部長)に就任。その後、09年 常務取締役、11年 専務取締役、12年 CTO就任。13年 代表取締役専務取締役を経て、14年 代表取締役副社長就任。</p>
Session 1 15:30 エグゼクティブ講演 技術の掘り起こしとイノベーションを活かす経営 <ul style="list-style-type: none"> ■復活への道のりとリーダーの役割 ■音響、通信、映像など、強みを活用した技術経営の取組み ■イノベーションの創出～想像力のある組織・人づくり <p>株式会社JVCケンウッド 代表取締役社長 兼 執行役員 最高経営責任者(CEO) 辻 孝夫 氏</p> <p>プロフィール 1949年 京都府生まれ。73年 日商岩井株式会社入社。83年 ニューヨーク本社勤務。95年 日商エレクトロニクス株式会社出向。96年 マルチメディアシステム部部長。99年 ネットワーク事業部事業部長。99年 取締役。2000年 常務取締役。02年 代表取締役社長。09年 取締役会長。10年 双日機械部門顧問。13年 株式会社JVCケンウッド 社外取締役。14年 代表取締役社長兼執行役員 最高執行責任者(COO)、兼最高リスク責任者(CRO)、兼最高革新責任者(CIO)。16年 代表取締役社長 兼 執行役員 最高経営責任者(CEO)。</p>	エグゼクティブ講演 富士フィルムにみるイノベーションと新規事業開発 <ul style="list-style-type: none"> ■写真フィルム事業から進化したライフサイエンス事業 ■イノベーションを育む組織、人、そして仕組みづくり ■イノベーションを創出するリーダーの役割 <p>富士フイルム株式会社 執行役副社長 CTO 戸田 雄三 氏</p> <p>プロフィール 1973年 入社。カラーフィルム製品開発・製造技術に従事。93年より Fuji Photo Film B.V.(オランダ)研究所長、欧米市場向け感光材料の開発及びコラーゲン研究を基に再生医療の研究をスタート。2004年 化粧品・サプリメント事業、07年 医薬品事業を立ち上げる。再生医療イノベーションフォーラム 代表理事・会長、内閣官房健康・医療戦略参与を兼任。</p>	エグゼクティブ講演 ソニーの“創造と挑戦” ～感動をもたらす製品と新しい価値の創造～ <ul style="list-style-type: none"> ■“創造と挑戦”的理念に基づいた、新たな製品開発やビジネスモデルの構築 ■“ラスト・ワン・インチ”における、ユーザーへの新たな価値の提供 <p>ソニー株式会社 執行役副社長 コーポレートR&D担当 鈴木 智行 氏</p> <p>プロフィール 1979年 ソニー株式会社入社。以来約30年に渡り、イメージセンサーの創世記から成熟期まで、開発から設計、製造、営業と事業全般を担当。CCDからCMOSイメージセンサーへの転換を図り、半導体事業の成長を牽引。2012年よりコーポレートR&Dを担当。15年 執行役副社長就任。技術の差異化により、イノベーティブなソニーの製品開拓をリードしている傍ら、人材育成にも注力し、リーダーシップ、マネジメントについて社内教育を実施。</p>	水野和敏氏との対話 対話トピック例: <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションの真髄とは? ・いかにイノベーション人材を育てるか? ・一流とは何か? など <p>水野和敏氏との対話</p> <p>カリスマ開発者として一時代を築き上げた水野氏へのダイレクトな質問、そして相談事など、他では体験できない貴重なセッション</p>	エグゼクティブ講演 社会・技術・科学の相互進化を成長に活かすオムロンの技術経営 <ul style="list-style-type: none"> ■技術で社会課題を解決するオムロンの事業展開 ■事業の成長を加速する骨太のテーマ設定 ■新規事業のタネを産み出すマネジメント <p>オムロン株式会社 代表取締役 執行役員専務 CTO兼技術・知財本部長 宮田 喜一郎 氏</p> <p>プロフィール 1985年 神戸大学工学部卒業、同年、株式会社立石ライフサイエンス研究所(現オムロンヘルスケア株式会社)入社。94年 米国Omron Healthcare, Inc. 指技術管理ディレクター、商品企画マネージャー、2003年 オムロンヘルスケア株式会社 商品事業統轄部生体計測事業部長、08年 同社商品事業統轄部長 兼 執行役員常務就任を経て、10年 オムロンヘルスケア株式会社 代表取締役社長に就任。10年 オムロン株式会社執行役員、12年 同社執行役員常務を経て、15年 同社CTO 兼 技術・知財本部長に就任。17年 同社執行役員専務を経て、同社代表取締役 執行役員専務 CTO 兼 技術・知財本部長に就任。</p>
Session 2 15:45 エグゼクティブ講演 技術の掘り起こしとイノベーションを活かす経営 <ul style="list-style-type: none"> ■復活への道のりとリーダーの役割 ■音響、通信、映像など、強みを活用した技術経営の取組み ■イノベーションの創出～想像力のある組織・人づくり <p>株式会社JVCケンウッド 代表取締役社長 兼 執行役員 最高経営責任者(CEO) 辻 孝夫 氏</p> <p>プロフィール 1949年 京都府生まれ。73年 日商岩井株式会社入社。83年 ニューヨーク本社勤務。95年 日商エレクトロニクス株式会社出向。96年 マルチメディアシステム部部長。99年 ネットワーク事業部事業部長。99年 取締役。2000年 常務取締役。02年 代表取締役社長。09年 取締役会長。10年 双日機械部門顧問。13年 株式会社JVCケンウッド 社外取締役。14年 代表取締役社長兼執行役員 最高執行責任者(COO)、兼最高リスク責任者(CRO)、兼最高革新責任者(CIO)。16年 代表取締役社長 兼 執行役員 最高経営責任者(CEO)。</p>	エグゼクティブ講演 富士フイルムにみるイノベーションと新規事業開発 <ul style="list-style-type: none"> ■写真フィルム事業から進化したライフサイエンス事業 ■イノベーションを育む組織、人、そして仕組みづくり ■イノベーションを創出するリーダーの役割 <p>富士フイルム株式会社 執行役副社長 CTO 戸田 雄三 氏</p> <p>プロフィール 1973年 入社。カラーフィルム製品開発・製造技術に従事。93年より Fuji Photo Film B.V.(オランダ)研究所長、欧米市場向け感光材料の開発及びコラーゲン研究を基に再生医療の研究をスタート。2004年 化粧品・サプリメント事業、07年 医薬品事業を立ち上げる。再生医療イノベーションフォーラム 代表理事・会長、内閣官房健康・医療戦略参与を兼任。</p>	エグゼクティブ講演 ソニーの“創造と挑戦” ～感動をもたらす製品と新しい価値の創造～ <ul style="list-style-type: none"> ■“創造と挑戦”的理念に基づいた、新たな製品開発やビジネスモデルの構築 ■“ラスト・ワン・インチ”における、ユーザーへの新たな価値の提供 <p>ソニー株式会社 執行役副社長 コーポレートR&D担当 鈴木 智行 氏</p> <p>プロフィール 1979年 ソニー株式会社入社。以来約30年に渡り、イメージセンサーの創世記から成熟期まで、開発から設計、製造、営業と事業全般を担当。CCDからCMOSイメージセンサーへの転換を図り、半導体事業の成長を牽引。2012年よりコーポレートR&Dを担当。15年 執行役副社長就任。技術の差異化により、イノベーティブなソニーの製品開拓をリードしている傍ら、人材育成にも注力し、リーダーシップ、マネジメントについて社内教育を実施。</p>	エグゼクティブ講演 社会・技術・科学の相互進化を成長に活かすオムロンの技術経営 <ul style="list-style-type: none"> ■技術で社会課題を解決するオムロンの事業展開 ■事業の成長を加速する骨太のテーマ設定 ■新規事業のタネを産み出すマネジメント <p>オムロン株式会社 代表取締役 執行役員専務 CTO兼技術・知財本部長 宮田 喜一郎 氏</p> <p>プロフィール 1985年 神戸大学工学部卒業、同年、株式会社立石ライフケア研究所(現オムロンヘルスケア株式会社)入社。94年 米国Omron Healthcare, Inc. 指技術管理ディレクター、商品企画マネージャー、2003年 オムロンヘルスケア株式会社 商品事業統轄部生体計測事業部長、08年 同社商品事業統轄部長 兼 執行役員常務就任を経て、10年 オムロンヘルスケア株式会社 代表取締役社長に就任。10年 オムロン株式会社執行役員、12年 同社執行役員常務を経て、15年 同社CTO 兼 技術・知財本部長に就任。17年 同社執行役員専務を経て、同社代表取締役 執行役員専務 CTO 兼 技術・知財本部長に就任。</p>	
15:45 ~17:45 (17:50 終了)	<p>※各セッション後半部には、本プログラムの主幹:ADL パートナー 森洋之進氏を交えたゲスト講演者との「対談」、そして聴講者の皆さまを交えた「質疑応答」を予定しております。</p>	<p>※各セッション後半部には、本プログラムの主幹:ADL パートナー 森洋之進氏を交えたゲスト講演者との「対談」、そして聴講者の皆さまを交えた「質疑応答」を予定しております。</p>	<p>※各セッション後半部には、本プログラムの主幹:ADL パートナー 森洋之進氏を交えたゲスト講演者との「対談」、そして聴講者の皆さまを交えた「質疑応答」を予定しております。</p>	<p>※各セッション後半部には、本プログラムの主幹:ADL パートナー 森洋之進氏を交えたゲスト講演者との「対談」、そして聴講者の皆さまを交えた「質疑応答」を予定しております。</p>

経験と論理と対話による

“ウェットな”薰陶と学習

本フォーラムへの参加によって 習得されるもの

- イノベーションの本質に対する実感的理解
- 自社におけるイノベーション創出に対する示唆とヒント
- イノベーションを自社内組織へ落とし込む際のフレームワーク・スタンス
- 他社、他業界におけるイノベーションの実例
- イノベーション創出に向けた勇気と自信



本フォーラムは有数の日本企業で自らイノベーションを起こし、さらに企業経営に携わってきた「シニアエグゼクティブ」に講師として登壇していただき、また講師及びフォーラム参加者との真摯な対話を通じて、自社のイノベーションマネジメントに対する示唆とヒントを得る貴重な研修機会となります。

現在、経営に携わっているマネジメントだけではなく、次世代の経営幹部の方々にとっても実践的経営を学ぶ有益な場となります。

前回の模様



参加者の声

- 率直なご意見をうかがえて非常に勉強になりました。部品メーカーに対する生の声が聞けたのが大きな収穫。また質疑応答の話は本当の生の声で、興味深い話ばかりでした。(大手機械メーカー)
- 毎回非常に興味深い話で、有難うございました。それ以外の部分で講師の方々との接觸がきっかけで、新しい共同開発ができるようになりました。(大手製薬メーカー)

プログラム主幹

アーサー・D・リトル・ジャパン株式会社
パートナー
森 洋之進

